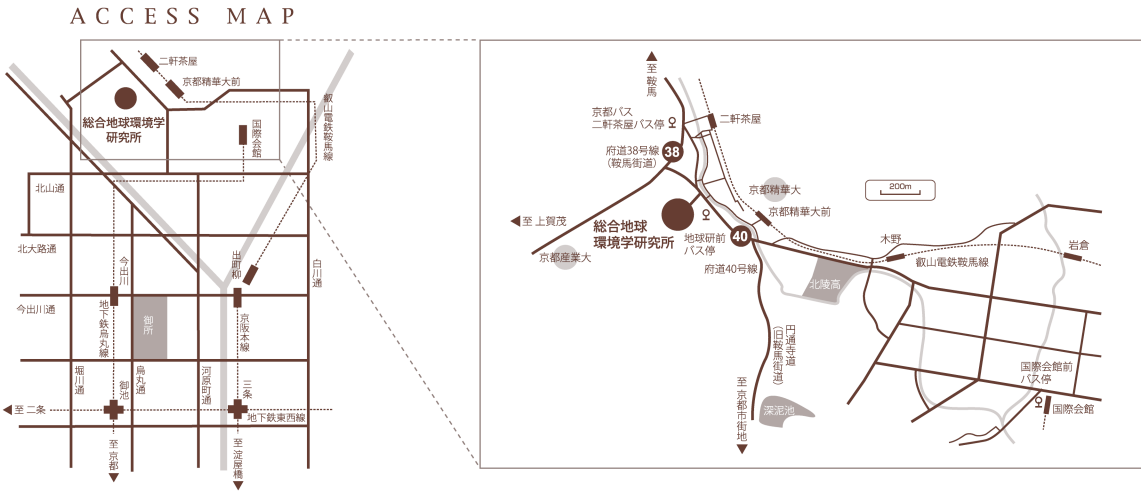


暮らしに寄り添う

話し手:三谷 龍二 (木エディタナー)
聞き手:鞍田 崇 (総合地球環境学研究所上級研究員)

2010.7.21 wed 15:00-17:00

会場:総合地球環境学研究所・講演室
定員120名／申込不要・聴講無料



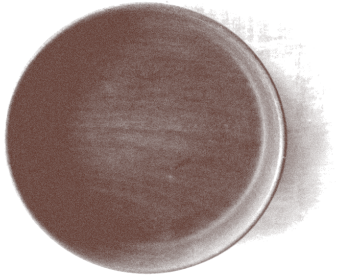
- JR「京都駅」・近鉄「京都駅」・阪急「烏丸駅」より
京都市営地下鉄烏丸線に乗り換え、「国際会館」下車。国際会館駅バスターミナル2番乗場から
京都バス40系統(京都産業大学ゆき)もしくは50系統(市原ゆき)にて(約10分)、
「地球研前」下車スグ。
- 京阪「出町柳駅」より
叡山電鉄鞍馬線に乗り換え、「京都精華大前」もしくは「二軒茶屋」下車、徒歩10分。

※マイカーの利用はご遠慮ください。

お問合せ

環境思想セミナー担当 鞍田 (くらた)
075-707-2382 fax.075-707-2508 kurata@chikyu.ac.jp

暮らしに寄り添う



主催・総合地球環境学研究所 文明環境史領域 プロジェクト「農業が環境を破壊するとき」(里プロジェクト)

今後の予定

vol.33 2010年8月31日(火)「土に住まう」(仮題)
講師・久住 有生(左官)

最終回 2010年9月24日(金)「エピローグーそこに在るもの」(仮題)
講師・尹 熙倉(美術家、多摩美術大学准教授)
森 桜(アート・コーディネーター、森オフィス代表)



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
総合地球環境学研究所(地球研)
〒603-8047 京都市北区上賀茂本山457番地4
<http://www.chikyu.ac.jp>

暮らしに寄り添う

話し手・三谷 龍二（木工デザイナー）

聞き手・鞍田 崇（総合地球環境学研究所上級研究員）

2010年7月21日（水曜日）

15時～17時

ものを作るということは、作家がものを作るといっただけではないと思います。もっと広く、人間のもっと本能的な部分につながっているのではないのでしょうか。素材に触れるよろこびや、ものが自分の手から生まれるよろこびは、ものを使うようごとと同じ質のものだから、こんなに複雑な社会のなかで、もっと単純に人が生きていけるということや、手間をかけて暮らすことの気持ちよさ、頭だけでなく手を動かすことの大切さを伝えることも、ものの作りの仕事といってもいいと思います。もっと単純な仕方、僕たちは生きていける。どこか遠くへ行かなくても、ここにいる豊かな世界に触れることできる。どれもみな、ものを作ることにつながっていることだと思ふのです。

——三谷龍二 手とこころの関係 より

もっと単純な仕方、僕たちは生きていける。



写真／三谷 龍二

三谷龍二 MITANI Ryuji

木工デザイナー。1952年福井市生まれ、その後大阪、京都を経て、松本へ。1981年長野県松本市に個人工房「ベルソナスタジオ」を開設、複数の職人たちの共同作業により木の器をつくる。毎日の食卓で使われる木の器を提案し、全国のギャラリーで個展を開いているほか、立体作品、平面作品も手がける。クラフトフェアまつもと」の運営に当初より携わり、現代の暮らしと工芸のあり方を模索し続けている。著書に『木の匙』（新潮社）、『僕のいるところ』（主婦と生活社）、三谷龍二の木の器（アトリエ・ヴン）『遠くのと手と心』（『フニクス・スタジオ』など。最新刊として、2010年5月刊行の『僕的生活散歩』（新潮社）がある。



写真／有賀 優